

調査・研究

各種団体からの調査・研究を受託

『既設塩化ゴム系塗膜への弱溶剤形塗料を用いた塗替え仕様』
(日塗検ニュース No.134, 2014)

項目	内容	単位	値
1-1	エポキシ樹脂	—	210
1-2	エポキシ樹脂	—	210
1-3	エポキシ樹脂	—	11.4
1-4	エポキシ樹脂	—	—
1-5	エポキシ樹脂	—	—
1-6	エポキシ樹脂	—	—
1-7	エポキシ樹脂	—	—
1-8	エポキシ樹脂	—	—
1-9	エポキシ樹脂	—	—
1-10	エポキシ樹脂	—	—
1-11	エポキシ樹脂	—	—
1-12	エポキシ樹脂	—	—

試験方法シリーズ
コンクリート被覆材の耐久性に関する研究

試験方法シリーズ
既設塩化ゴム系塗膜への弱溶剤形塗料を用いた塗替え仕様

株式会社高速道路総合技術研究所 道路研究部 橋梁研究室
若林 大、木次 克彦
一般財団法人日本塗料検査協会 技術開発部 中山 俊介

成4年頃まで表-1に示す塩化ゴム系塗料を用いた重防食
主に寒冷 塗装仕様が採用されてきた。これは、塩化ゴム系塗料
して、平 が塗膜中溶剤の自然乾燥により低温(0℃)でも硬化す

ム系塗料を用いた旧重防食塗装仕様

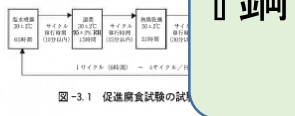
塗料又は表地調整程度	施工方法	標準膜厚(μm)
ISO-Sa2.0	ブラスト	—
プライマー	—	—
エッチングプライマー(長ばく形)	スプレー	15
下塗第1層	鉛系Sび止めペイント1種下塗	35
下塗第2層	鉛系Sび止めペイント1種下塗	35

『薄板における溶融亜鉛めっきの付着量と表面処理グレードについて』
(日塗検ニュース No.132, 2013)

メーカーの標準施工条件を目
2.4に塗装状況を示す。なお
原については表-2.1に記載し



また、膜厚確認用として各塗装試験片4枚の横に磨き
軟鋼板(70×150×0.8mm)を試験板と同じ高さになるよ
うに並べて置き、試験片と同様に塗装した磨き軟鋼板か
ら各仕様の膜厚を測定した。



(2) 付着性試験
付着性試験は、プル
験の前で行
め、180日ま
付着性試験も
付着性試験状
①②③はカッ
片とし、3種
ケレン試験面
方所) 実施す
各試験片とも3種ケレン試験面(上・中・下)おおよそ

『鋼部材腐食部の超簡易補修材料の塗膜性能評価』
(日塗検ニュース No.135, 2014)

長期暴露試験調査の結果、特に高温多湿環境にある沖橋でふくれが多く認められた。また、

表-2 現行基準の重防食塗替え塗装仕様

標準膜厚(μm)	塗料	施工方法
—	—	—
75	—	—
60	—	—
60	—	—
30	—	—
25	—	—
—	—	—
30	—	—
30	—	—
60	変性エポキシ樹脂塗料下塗	ハケ
60	変性エポキシ樹脂塗料下塗	ハケ
60	変性エポキシ樹脂塗料下塗	ハケ
30	ふっ素樹脂塗料用中塗	ハケ
30	ふっ素樹脂塗料上塗	ハケ

塗装は、鋼道路橋塗装・防食便覧に示される表-1塗装系と同様の橋脚
の塗替えには、適用対象外の仕様であった(本稿での検討対象)

『コンクリート被覆材の耐久性に関する研究』
(日塗検ニュース No.123, 2008)

『橋梁の重防食塗装系の耐久性試験(長期の耐複合サイクル防食性試験結果)』
(日塗検ニュース No.127, 2010)